

## 相模湾を眺めていた弥生時代の人々

杉山浩平

（東京大学 総合文化研究科 特任研究員）

### 1. なぜ「海」が問題なのか

#### 弥生時代はコメの時代という認識

- ・戦後直後の静岡県静岡市 登呂遺跡の発掘（1946 年）  
登呂遺跡が弥生式文化時代の後期の農村のあとであり、しかも当時の水田の遺構を伴っているというのを特色とする。（中略）一つのムラの景観ともいってよいと思う（後略）（後藤守一 1954：登呂遺跡報告書「総括」）  
→敗戦からの復興・皇国史観からの脱却→日本の原風景を登呂に求めた。
- ・「縄文時代までは狩猟採集の時代、弥生時代以後は農耕の時代」という価値観  
戦後刊行された考古学の概説書で農耕を評価  
→間違いではない。しかし、稲作を重視しすぎたかも。。  
→少ないながら、「海」に関心を持つ考古学者：  
江藤 千萬樹（駿河湾沿岸地域出土の錘を用いた漁撈）  
赤星 直 忠（三浦半島の洞穴遺跡と漁撈民）

#### 忘れられた「海」と弥生文化

- ・考古学以外では、弥生文化のなかに漁撈民の姿を見ている。  
民族学：岡 正雄・大林 太良 は弥生文化の源流に漁撈文化の要素を見いだす。  
考古学の研究においては、周辺学問の成果が活かされず。  
縄文時代に比べて貝塚が極端に少ない。
- ・「海」を舞台に活躍した弥生人  
1960 年代～1980 年代に三浦半島の洞穴遺跡の調査  
魚骨や漁撈具が出土するものの、特殊性のみが強調される。  
1980 年代～1990 年代に池子遺跡（逗子市）の発掘調査  
木製品（農耕具や櫂など）・多様な魚骨・貝などが出土  
2000 年頃から弥生文化の「いろいろな要素」に着目

### 2. 舟から船へ 準構造船の登場

#### 丸木舟から準構造船へ（図 1）

- ・丸木舟（刳船）とは

一木を半裁、その後割り貫いて製作。

大きさ約 5～7m、幅 0.5～0.7m 程が多い。

船内に水はしみ出しにくい、水面から船縁までが短いので波が入りやすい。

神奈川県内の資料：羽根尾貝塚（小田原市）・伝福寺裏遺跡（横須賀市）

#### ・準構造船とは

舟は板材を組み合わせて作られる様になる。「構造船」という。

例：江戸時代の弁財船 何枚もの板を船釘で留めてくみ上げる。

全長 29m、幅 7.5m、150 トンの荷物を運ぶ。

「丸木舟」から「構造船」への進化の過程にあるものを「準構造船」という。

丸木舟をベースにして舷側板などをつけて大きくしたもの。

船体の強度を保ち、船を大きくする。

中世までの日本の船の中心



図 1：丸木船と準構造船

（左・丸木舟：横須賀市伝福寺裏遺跡、右・復元された準構造船：長崎県壱岐国博物館）

（伝福寺裏遺跡 出典『掘り進められた神奈川の遺跡』有隣堂）

#### ・オールとパドル

オール：民俗例では長さ 2m 程度。1 点を支柱に縛り、そこを支点に 槌子の原理でこぐ。

パドルに比べて、推進力はある。

進行方向に対して後ろ向きになり、小回りがきかない。

パドル：民俗例では長さ 1.2m 程度。水をかき寄せるようにこぐ。

進行方向を向き、小回りがきく。

体力の消耗が激しい

神奈川県逗子市池子遺跡出土の弥生時代の木製品

2 形態。長さ 1.5m を超えるものと 1m 以内の小ぶりのもの

### 弥生時代の船団

#### ・土器や木器・青銅器に描かれた船

弥生時代の西日本では船が描かれた資料が出土

鳥取県 青谷 上寺地 遺跡や兵庫県 袴狭 遺跡など（図 2）

船は複数で描かれる

船の描かれ方—東と西—  
船団はなにを意味しているのか

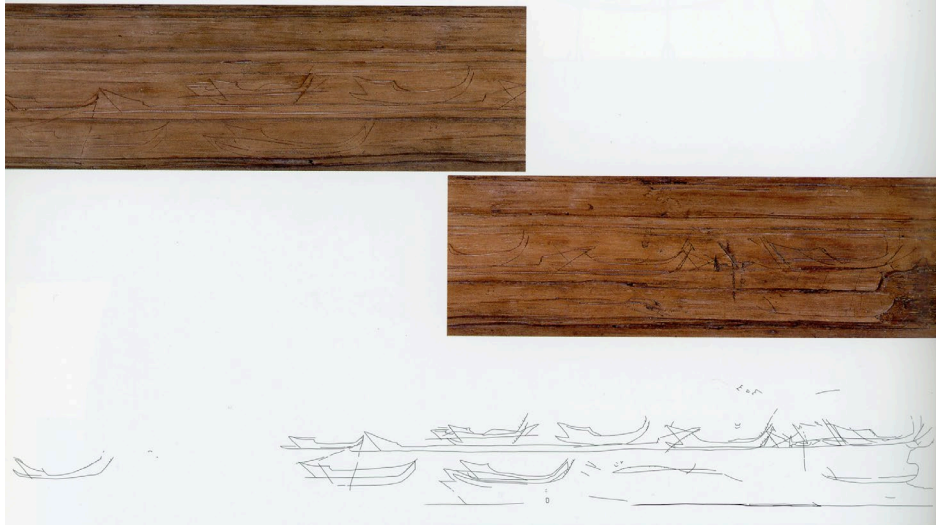


図2 兵庫県袴狭遺跡（出典：『弥生人の船』大阪府立弥生文化博物館）

- ・ 出土「船」資料  
弥生時代の船の完形資料はない。  
部材での出土する

### 3. 相模湾沿いの弥生時代の遺跡

#### 岩場と砂浜（図3・4）

- ・ 伊豆半島から小田原西部  
山体が海岸近くまで伸びる。限られた沖積地。  
伊豆：姫宮<sup>ひめみや</sup>遺跡（河津町）・日暮<sup>ひぐらし</sup>遺跡（伊東市）
- ・ 小田原西部から鎌倉  
全体的に砂浜が広がる。沖積地あり。  
三ッ俣<sup>みつまた</sup>遺跡・町畑<sup>まちはた</sup>遺跡（小田原市）  
南原<sup>みなみはら</sup>B遺跡など平塚地域砂丘上の遺跡
- ・ 逗子から三浦  
全体的に岩場・磯場となる  
海岸を望む丘陵の上か洞穴遺跡  
桜山<sup>さくらやま</sup>うつき野<sup>の</sup>遺跡（逗子市）・三浦市域の海蝕洞穴遺跡

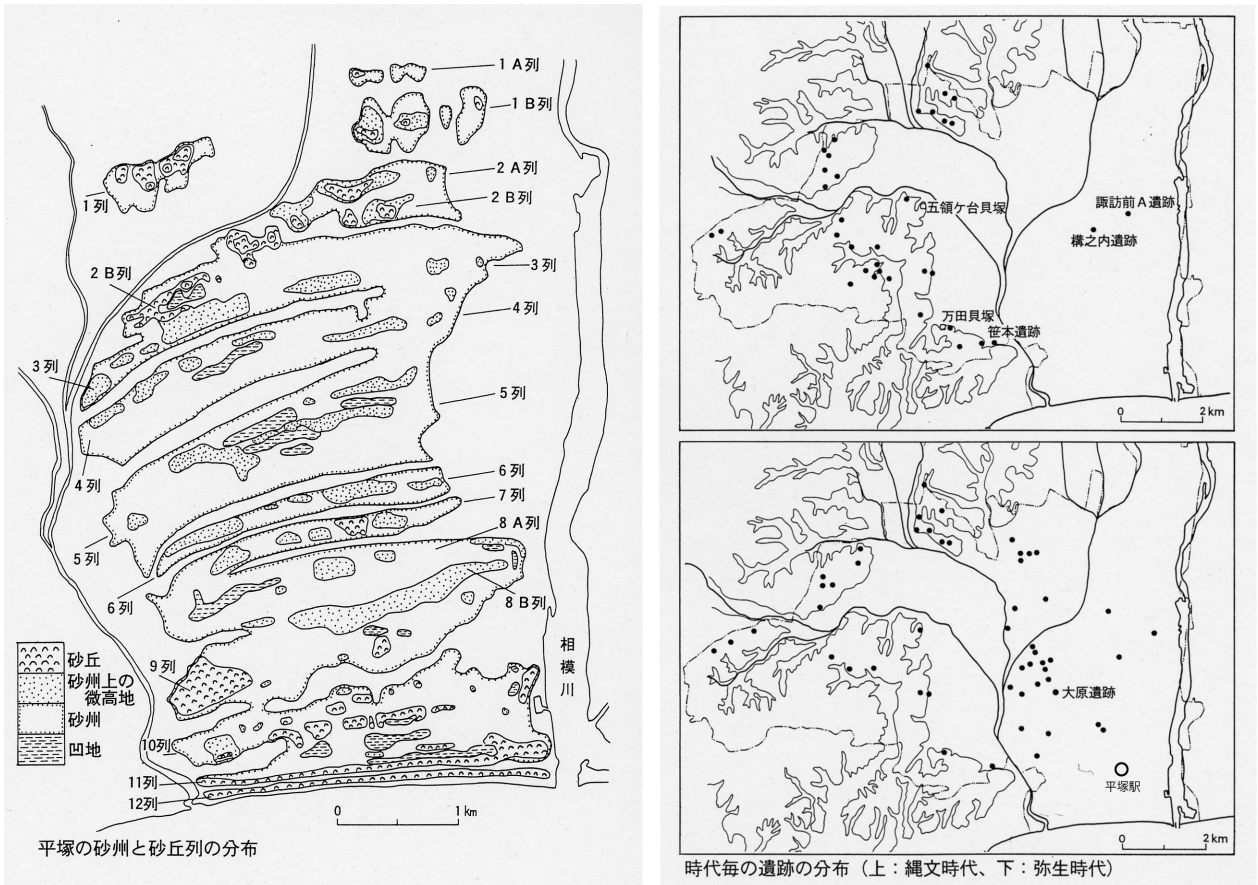


図3 平塚市域の砂丘と遺跡の分布（出典『平塚・平野の地形』平塚市博物館、一部加筆）

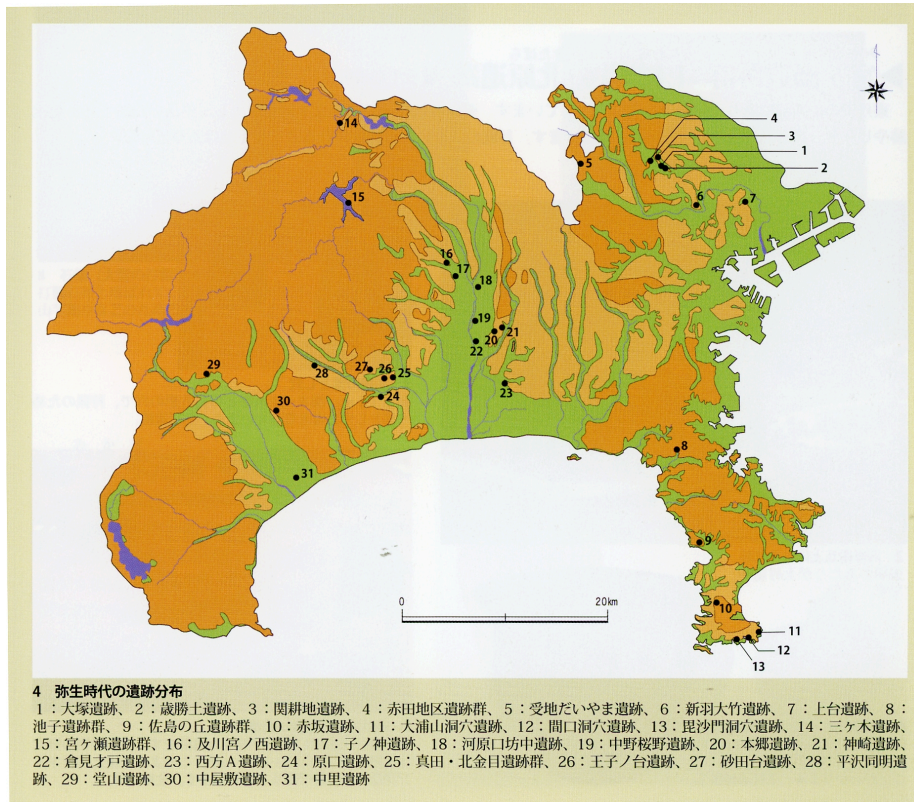


図4 神奈川県下の主な弥生時代の遺跡の分布（出典『掘り進められた神奈川の遺跡』有隣堂）

4. モノとヒトは海からも-相模湾は関東への入口-

弥生時代前期

- ・ コメは伊豆の島々から伊豆半島へ (図5)

伊勢湾沿岸からの渡来者とコメ

伊豆諸島と相模湾岸の交流

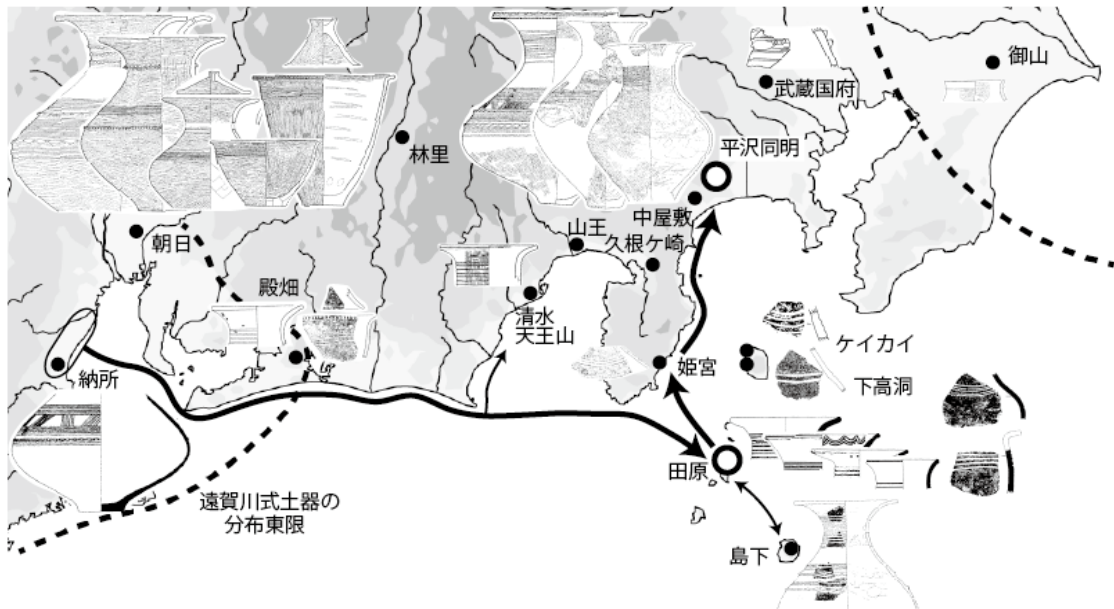


図5 弥生時代前期の集団の移動と稲作の伝播

弥生時代中期

- ・ 海からの渡来者 (図6)

近畿地方からの渡来者

伊勢湾沿岸地方からの渡来者

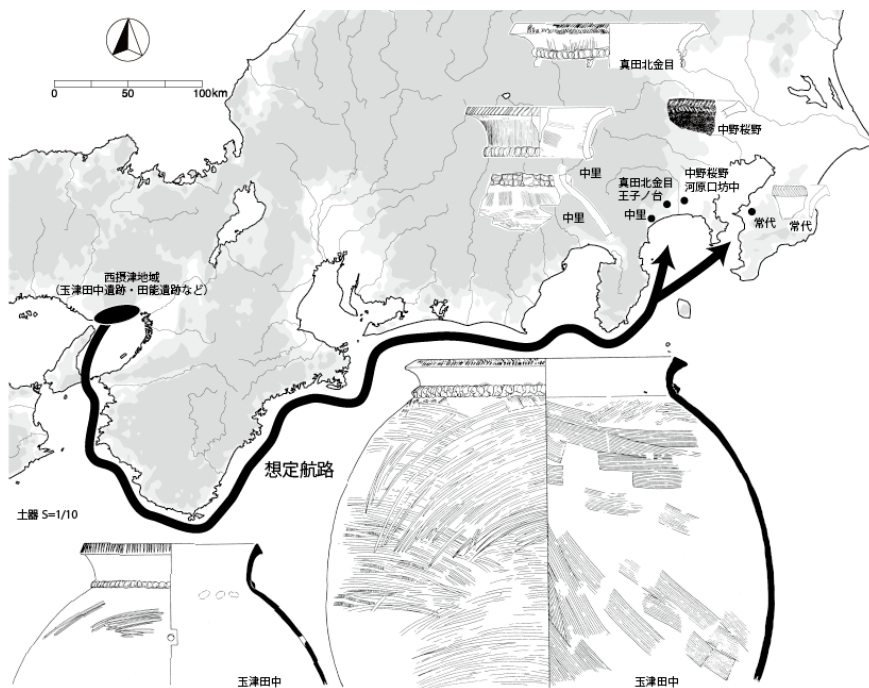


図6 弥生時代中期の集団の移動

・島との交流

伊豆諸島との交流 (図 7)  
相模湾沿岸の洞穴遺跡

弥生時代後期

・海からの渡来者

三河・遠江地域からの集団が関東へ

・相模湾沿岸を眺める山頂の遺跡

大磯 湘南平の上の遺跡 (図 8)  
横須賀 佐島の丘の遺跡



図 7 弥生時代中期の伊豆諸島との交流

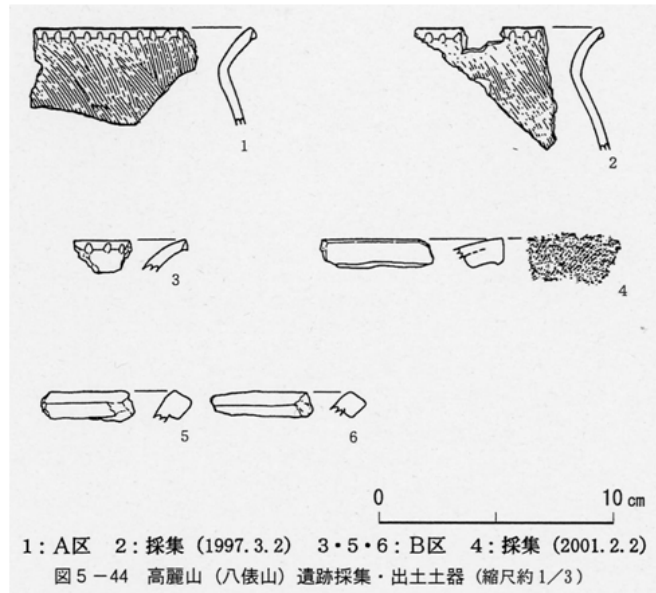


図 8 湘南平の遺跡：大磯町 高麗山遺跡 (出典『大磯町史』別編 考古)

### 5. まとめ 海岸部の遺跡の意味

- ・弥生文化の研究の中に「海」が抜けていたが、重要である。
- ・弥生時代から準構造船が登場し、積載量が増えることで、より活性化された。
- ・河川河口部の遺跡がより重要な意味を持つ。
- ・人の移動と文物の交易が船によって行われてきた。